

第2回城東南部 報告書

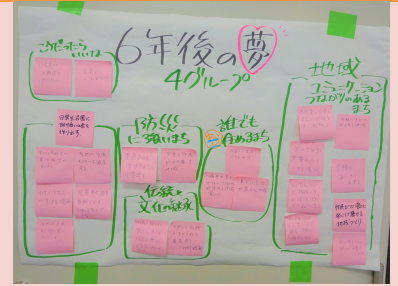
まちづくり 話し合い ひろば

2023.6.21

砂町文化センター

13:30~15:30

参加者 29名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

あつまる！つながる！やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



今回の「まちづくり話し合いひろば」では、ビジョンを作っていくこと、変化をどう起こしていくかを考える時間だった。一人ひとりのアイデア、チカラ、エネルギーをつなげていけば、地域でできることはもっとあるのではないかと。ただ一方で、変化を起こしていく、変化をイメージするにあたって、地域の中の人だけでできるかということ、できない。地域の外の人とつながったり、目を開くための学習を継続的に行うことが大切。

今後ゆるくつながり続けていく場をどう作っていくか。それも公的に作ると堅苦しくなってくるので、住民のみなさんがしっかり運営していくことが大切。3回目のワークショップはその道筋をどうつけていくかということを考えることと思います。

6年後こうあったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・ボランティアや担い手が多くいる地域
- ・色々な世代の人とコミュニケーションが取れる場所がある地域
- ・集合住宅の入居者同士、入居者と地域住民との交流が日常的にできる地域
- ・色々な情報に簡単にアクセスできる社会
- ・助けたり助けられたりという支え合いができる地域
- ・ゴミ出しのルールが守られている地域
- ・居場所や相談する場所がある地域
- ・活動団体や後継者が育成され、活動団体の交流が進んでいる地域
- ・福祉のワンストップサービスができる地域
- ・ボランティアが「ボランティアである」という意識がなくなって、当たり前になる地域
- ・つながるための居場所がある地域
- ・交流し、相談し、共助ができる地域
- ・表札、名札がある地域
- ・自分たちのモラル、子どもに見せる親のモラル、これらをレベルアップできている地域
- ・外国人の方に対して偏見や差別がなく、異文化交流が盛んな地域
- ・祭礼に多くの住民が参加でき、砂町銀座のようにモダンと伝統が活かされている場が継承された地域

自分・地域・団体に できること 一部抜粋

- ・集会所を居場所として活用していきます。
- ・高齢者の話し相手になります。
- ・自分の足元の活動を地道に続けていきます。
- ・ボランティアができる心の余裕を作ります。
- ・食事づくりのお手伝いや見守りをします。
- ・事業所を利用している人もボランティアとして一緒に活動します。
- ・地域のイベントにできる限り参加します。
- ・人とつながる機会を大切にします。
- ・つながりの輪を広げます。
- ・おせっかいパワーをアップします。
- ・何事もすぐに結果が出るわけでもないけれど、心が折れそうになっても声を挙げ続けます。
- ・みんなで協力し居場所づくりにみんなが参加します。
- ・つながりをつくるにはまず人との交流が大事。そのために自分のできることをします。
- ・今活動している人は健康を維持し、やめないで続けていきます。
- ・役員任せにしないで、町会の行事に参加していくことで、役員だけでなく会員が参加できる開かれた町会に改革していけるように住民として関わっていきます。
- ・自分たちが〇〇の宣伝マンになり、団体がやっていることを発信し自分たちの活動を周知します。
- ・若い人たちの協力を求めます。



第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうあったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分ができること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になるようなご意見が出たのではないかと思います。